

仙台シューマン協会

第 106 回 コンサート



2016年1月31日(日) 14:00

仙台市戦災復興記念館 記念ホール

後援/(財)仙台市市民文化事業団

プログラム

■ H.ヴォルフ *Hugo Wolf (1860-1903)*

「メーリケ歌曲集」より *Mörike-Lieder*

飽くことを知らぬ愛 *Nimmersatte Liebe*

春だ *Er ist's*

少年と蜜蜂っ子 *Der Knabe und das Immllein*

捨てられた小間使い *Das verlassene Mägdelein*

祈り *Gebet*

隠棲 *Verborgtheit*

さよなら *Lebe wohl*

ソプラノ 高 柳 ユ ミ
ピアノ 笈 沼 甲 子

■ L.ベートーヴェン *Ludwig van Beethoven (1770-1827)*

ピアノソナタ 第23番 へ短調 「熱情」 Op.57

Sonate für Klavier Nr.23 f-Moll "Appassionata" Op.57

ピアノ 桑 折 美佐子

休 憩

■ A.ノターリ *Angelo Notari (1566-1663)*

和らげておくれ お前たち、私の涙を

Intenerite voi, lagrime mie

S.ティンティア *Sigismondo D'India (1582?-1627)*

愛の戦いへ *Alla guerra d'amore*

A.グランディ *Alessandro Grandi (1586-1630)*

いとしく快い棘よ *Spine care e soavi*

G.サルティ *Giuseppe Sarti (1729-1802)/一世 (issei) 編*

いとしい女^{ひと}から遠く離れて *Lungi dal caro bene*

A.スカラルッティ *Alessandro Scarlatti (1660-1725)/一世 (issei) 編*

私は心に感じる *Sento nel core*

A.チェスティ *Marc' Antonio Cesti (1623-1669?)/一世 (issei) 編*

私の偶像である人の回りに *Intorno all'idol mio*

ソプラノ 梅 津 美智子
メソソプラノ 佐 藤 明 子
ピアノ 一 世 (issei)

■ R.シューマン *Robert Alexander Schumann (1810-1856)*

アンダンテと変奏曲 変口長調 Op.46

Andante und Variationen B-Bur Op.46

S.ラフマニノフ *Sergei Vasil'evich Rachmaninoff (1873-1943)*

2台のピアノの為の組曲 第2番 Op.17 より「ワルツ」

Suite No.2 Op.17 "Valse"

ピアノ 太 田 ゆり子
ピアノ 櫻 田 薫

プログラムノート — 解説と訳 —

H. Wolf

「メーリケ歌曲集」より

飽くことを知らぬ愛

春だ

少年と蜜蜂っ子

捨てられた小間使い

祈り

隠棲

さよなら

1888年に作曲された、エドゥアルト・メーリケの詩による53曲の中の7曲である。ヴォルフはあらゆる孤独の中で、詩を深く理解し創作した。

今回は新たにドイツ文学者の平間孝雄氏に訳詞を依頼した。

飽くことを知らぬ愛

愛とはこのようなもの！ 恋とはこのようなもの！

口づけでは鎮められない、

だだの水だというのにふるいで汲もうなんて

そんなお馬鹿さんがいるだろうか。

お前さんが千年も汲んだところで、

そして永遠に口づけをしたって、そう、永遠に、

決して恋の思いを満たすことはできない。

愛とは、恋とは常に
新たな変わった欲望を持つ。
今日二人が口づけをした時に
僕らは唇を噛み合せて傷つけ合った。
あの子は、ナイフの下の子羊のように
すっかり落ち着いていて、
あの子の眼は「さあ、もっと、もっと、
痛ければ痛いほど良いわ。」と頼んでいた。

愛とはこのようなもの！それに昔もそうだった、
恋のこの世にある限り、
あのソロモン王も、
あの賢者でさえ同じような恋をしたのだ。

春だ

春が空色の帯を
再び風の中にはためかせて、
甘いよく馴染んだ香りが
さあもうすぐだと土の上を覆って行く。
莖は蕾になってもう夢を見ていて、
間もなく花開こうとしている。
聞いてごらん、遠くから低い豎琴の音が！
春だ、そうだお前がやってきたのだ！
お前だという事はもう音を聞いて分かっていた。

少年と蜜蜂っ子

丘の上の葡萄畑に一軒の小屋が
今にも風に倒れそうに立っている、
扉も窓もなく
時が退屈に流れる。

昼になって蒸し暑くなると、
小鳥たちはみんな歌うのを止めてしまう。
蜜蜂っ子がたった一匹だけ、
向日葵の花をズンズンとつついて飛んでいる。

あの子は庭があつて、
そこにかわいらしい巣箱があるんだ。
お前はあの子の所から飛んできたのかい？
あの子がお前を僕のところへ送り出したのかい？

あら違いますよ、かわいらしいあなた、
誰も私にお使いに行けなんて言わなかったわ。
あの子は愛なんて何にも知らないの、
それにあなたを見たこともほとんどないんだから。

学校を出たばかりの娘に
世の中がわかると思うの。
あなたの大好きなかわいい
あの子はまだほんの「ねんね」よ。

これからあの子の所へ蜜蝋と蜂蜜を運んで行くのよ、
さよなら、もうたっぷり1ポンド。
あのかわいい子はどんなに笑うでしょう、
もう涎をたらしているわ。

ああ、でもあなたがあの子に、蜂蜜なんかよりも
ずっと甘いものをぼくは知っていると言うつもりなら、
そうね、抱きしめ合って口づけするよりも
素敵なことはこの世にはないわね。

捨てられた小間使い

朝早く、雄鶏たちが時を告げると、
まだ星も消えない内に、
かまどに立って、
火を起こさなければならぬの。

炎の輝きは美しいわ、
火花がぱちぱち飛び散って；
じっと炎に見入ってしまう、
悲しみに沈み込んで。

ふと我に返ったの、
不実な人、
ゆうべあなたのことを
夢に見たんだわ。

そうしたら涙が後から後から
こぼれ落ちて；
そうしている内に夜が明けて・・・
ああ、早く夜になれば良いのに！

祈り

主よ！あなたがお望みのものをお送り下さい、
好ましいものでも苦しいものでも、
どちらのものも両手から
こぼれ出ることには私は満足しております。
喜びでも苦しみでも
余り多く注ぎかけないで下さい！
何と言ってもほどほどの所に、ほどほどの所に
好ましい慎みがあるのですから。

隠棲

おお世の中の人々よ、そっとしておいて欲しい！
施し物で誘ったりしないでくれ、
どうか私の心に
その喜びと苦しみを
得させて欲しい！

何が悲しいのか、私には分からない、
未だかつて分からない苦しみだ、
いつも溢れてた涙を通して
太陽の明るい光を見ている。

しばしば自分が何者か分からなくなる、
そして明るい喜びが
私を打ちひしいでいた重苦しさを貫いて、胸の中でこの上なく幸せに疼くのだ。

おお世の中の人々よ、そっとしておいて欲しい！
施し物で誘ったりしないでくれ、
どうか私の心に
その喜びとその苦しみを
得させて欲しい！

さよなら

「さよなら」・・・ 君は感じない、
この苦しみの言葉が何を表すのかを。
満ち足りた顔で
君はこの言葉を言った、しかも軽やかな心で。

さよなら！・・・ああ千回も
僕はこの言葉を自分で言ってみた、
すると尽きない苦しみに襲われて
この言葉で僕の心は裂けてしまった。

全訳 平間 孝雄

L.Beethoven

ピアノソナタ 第23番 ヘ短調 「熱情」 Op.57

BEEHOVEN、この綴り字は“不朽不滅”を予言している、と、かつてシューマンは言っていました。

現在、幼い孫が「喜びの歌」を弾き、家族で「エリーゼのために」を楽しみ、そして学生時代に「悲愴ソナタ」を弾き、音楽が人間の感情を表すものと気付かされた事を思う時、シューマンの予言は的中していたと思わざるを得ないのです。ベートーヴェンの音楽はあらゆる時代を越えて、全人類に共通する何かがあると、今になって思います。彼は貴族や教会の域を越え、自分の思想を“言語”ではなく楽器によって音符で具現化した第一人者といえます。その楽曲は主観のままに自由に動き個性的です。

今日弾く「ピアノソナタ OP.57 熱情」は1804年から05年にかけて作曲されました。耳の病に悩まされはじめ、療養先のハイリゲンシュタットで弟あてに二通の遺書をしたためた後です。苦悩から大きく乗り越えようとするべく、ただならぬ意気込みで取り組んだ、極めて訴える力の強い曲です。同じ時期に交響曲第5番「運命」も作曲し始めています。共通するテーマが随所に聴き取れるのも興味深いところです。

第一楽章：

アレグロ・アッサイ ヘ短調 12/8拍子 ソナタ形式

第二楽章：

アンダンテ・コン・モート 変ニ長調 2/4拍子 変奏曲形式

第三楽章：

アレグロ・マ・ノン・トロppo ヘ短調 2/4拍子 ソナタ形式

桑折 美佐子

- A. Notari 和らげておくれ、お前たち、私の涙を
- S. D'India 愛の戦いへ
- A. Grandi いとしく快い棘よ
- G. Sarti/一世 (issei) 編 いとしい女^{ひと}から遠く離れて
- A. Scarlatti/一世 (issei) 編 私は心に感じる
- A. Cesti/一世 (issei) 編 私の偶像である人の回りに

和らげておくれ、お前たち、私の涙を 詩：オッターヴィオ・リヌッチーニ

16～17世紀のイタリアの作曲家 A. ノターリによる世俗歌曲。教会音楽と一線を画したジャンルの曲として当時人気の高い曲で、想いが叶わない女性のもどかしい悲しみが歌われている。

和らげておくれ、お前たち、私の涙よ
和らげておくれ、あの頑なな心を
愛の神が挑んでも効き目なしだから。
流れ出ておくれ、いくらでもたくさん
そして涙の海を作っておくれ、悲しみの雫よ。
あの私の誇り高く、高慢な
麗しの岩礁が
お前たちに動かされ、心柔らかくなるように、
叶わぬならお前たちとともに、私の魂も流れ去るように。

訳 小瀬村 幸子

愛の戦いへ 作詞者不祥

16～17世紀のイタリアの流行作曲家、S. ディンディアによる。劇の挿入歌として作られた曲で、一人の男性に恋文で対抗する二人の女性が描写されている。

戦いへ、愛の戦いへ！
今や愛が時を告げ
心浮き立たせるようだから、
さあ、戦いへ、愛の戦いへ。

試合にはとりわけ美しいご婦人たちが
勇気をふるって来てくれることを、
そこでは苦しみも甘い味わいとなる、
さあ、戦いへ、愛の戦いへ。

戦闘合図も嬉しい負傷も
熱く燃える口づけによる、
だから喜びのうちに戦い、そして死ぬる、
さあ、戦いへ、愛の戦いへ。

ここでは争いも攻撃も平和のうちに、
敗者もまた勝者のように
同じ勝利を得る、
さあ、戦いへ、愛の戦いへ。

訳 小瀬村 幸子

いとしく快い棘よ 作詞者不祥

17世紀初頭のイタリアの作曲家、A. グランディによる世俗歌曲。朗読のための台本に作曲されたもので、市民劇場で初演された時はリュートの伴奏が付いていた。

いとしく快い棘よ、
お前たちは傷つけても癒し
遠く離れていても傷つける。
けれど、またこれも酷い仕打ち、
傷つけぬようと離れ行くのは、
傷つけるのも情けのうちであれば！
傷つけておくれ、傷つけておくれ、
いつものように激しく
この汚れない心を。
優しく心地よい棘よ、
刺しておくれ、いずこへも行かずに！

訳 小瀬村 幸子

いとしい女^{ひと}から遠く離れて オペラ「ジューリオ・サビーノ」から

18～19世紀の歌劇「ジューリオ・サビーノ」の中のテノールのアリア。
古典からロマン派の過渡期の音楽で、清楚なメロディにハーブのような美
しい伴奏部を持つ。

いとしい女^{ひと}から遠く離れて
私は生きてゆけない、
私は苦しみの海の中にいる。
いとしい女から遠く離れて
私は気も遠くなるような思いだ。

もし彼女を見ることができないなら、
甘い最後の眠りが
私の目をも閉ざしてくれるがいい。

訳 戸口 幸策

私は心に感じる 作詞者不祥

イタリア古典歌曲を代表するアリエッタのひとつ。原曲はリュートを含む弦楽合奏に独唱がつけられており、後年のチェンバロ伴奏譜はパリゾッティによる。

私は平安をかき乱す
苦しみのようなものを心に感じる。

魂を燃え立たせるひとつの松明が輝く。
もしこれが愛でないとしても、やがて愛になるだろう。

訳 戸口 幸策

私の偶像である人の回りに

詞: ジャント=アントレア・チコニーニ
(ジョバンニ=フィリッポ・アッポローニ改訂)
オペラ《オロンテア Orontea》(1656年)から

A. チッコニーニの戯曲に基づいた G. アッポローニの台本によるオペラ「オロンテア」の中のアリア。17世紀には比較的上演されていた3幕物のオペラだが、現在はこのアリアと数曲のカヴァティーナのみ残っている。後にレスピーギがこの曲を伴奏部に転用した歌曲を発表している。

いとしい人の回りに
さあ吹いておくれ、
柔らかで気持ちのいいそよ風よ。
そしてすばらしい頬に
私の代わりに口づけしておくれ、親切なそよ風よ。

静寂の翼の上に憩う
いとしい人の
楽しい夢を守り、
閉じ込められた私の熱情を
あの人に明かしておくれ、愛の幻よ。

訳 戸口 幸策

R.Schumann

アンダンテと変奏曲 変口長調 Op.46

当初、ピアノ2台とチェロ2、ホルン1という編成の室内楽曲として作曲された。一旦非公式の場で試奏され、その評価を踏まえて2台ピアノ用の曲に改定された。作品番号が付けられたのも2台版改定に対してである。2台ピアノ版はシューマンが残した唯一の楽曲である。楽曲は序奏（室内楽版のみ）主題、第1変奏～5変奏、間奏、第6～10変奏、終曲となっている。但し第10変奏は室内楽版のみである。ほとんどの箇所では2台ピアノが同じ旋律を模倣し、繰り返しながら進行する。序奏から終曲まで切れ目なく演奏される。

太田 ゆり子

S.Rachmaninoff

2台のピアノの為の組曲 第2番 Op.17 より「ワルツ」

「序奏」「ワルツ」「ロマンス」「タランテラ」の4曲から構成されている。交響曲第1番の失敗による神経衰弱の克服後、有名なピアノ協奏曲第2番 Op.18 と並行して作曲された。1901年に完成され、4曲それぞれが充実した創作力と魅力に満ちている。2曲目のワルツは、2台のピアノが3度音程のかるやかなワルツで始まり、3拍子と2拍子の交差が細やかな動きの中にもうねるような推進力を持つ。中間部は甘美なメロディーと和音がロシアのロマンティズムを感じさせる。最後はまた3度で、鐘の響きが遠くへ消え去るようにして終わる。

櫻田 薫

プロフィール

高柳 ユミ たかやなぎ ゆみ (会員) 【ソプラノ】

郡山女子短期大学部音楽科卒業。フルーティスト相澤政宏氏やバリトンの成田博之氏をゲストにソロリサイタルを開催、共演。石巻市民交響楽団との共演や、仙台アカデミー主催コンサートに出演。その他、シャンソンソロコンサートを開催するなど、ジャンルを超え各種のコンサート、ライブに出演。佐藤桂子、木村俊光の各氏に師事。坂田明、ザ・ジェイド、飯森典親氏ら多くの演奏家を招聘し、コンサートプロデュースを行っている。

笈沼 甲子 おいぬま こと 【ピアノ】

桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業。第5回東京声楽コンクールにて最優秀伴奏者賞を受賞。伴奏者、ソリストとしてコンサート、コンクール、録音等多岐に渡って演奏活動を行ない、過去7回行われたソロリサイタルはいずれも好評を博した。「若い演奏家の為のプロジェクト」を立ち上げ、コンサート及び音楽鑑賞教室等のプロデュースを行っている。二期会愛好家クラス、二期会仏歌曲研究会、コーロステラピアニスト。日本演奏家連盟会員。

桑折 美佐子 こおり みさこ (会員) 【ピアノ】

福島大学教育学部中学教員養成課程(音楽専攻)卒業。ピアノを高山菊司、片瀬敬子、松濱恵子、秋谷恵美、声楽を三塚典子の各氏に師事。卒業後は公立学校勤務を経て、現在ピアノ教室主宰。若林区でコール八七、コール燦々、クレッシェンド、フォンテーヌのピアノ伴奏、太白区で女声合唱マルベリー、秋桜ハーモニーの指揮を務める。

梅津 美智子 うめつ みちこ (会員) 【ソプラノ】

同志社女子大学学芸学部音楽学科声楽専攻卒業。高橋道子、故・石村雅子、長谷川美津子、宍戸真由美、佐藤明子、高橋絵里の各氏に声楽を師事。一世(issei)氏にピアノと声楽の楽曲解釈を師事。1998年より2005年まで、仙台ヴォーカルアンサンブルのメンバーとして古楽のコンサートに出演。

佐藤 明子 さとう あきこ (会員) 【メソソプラノ】

東京藝術大学声楽科卒業。宮本修、故藤村晃一、中村浩子、青山恵子、塚田佳男の各氏に師事。藝大在学中より中村浩子氏の下でフランス歌曲を中心に研鑽を積む。1990～91年ミュンヘン留学。アダルベルト・クラウス氏に師事。現在、常盤木学園高校非常勤講師。泉音楽院講師。オルガンとカンタータの会、仙台シューマン協会、華 日本詩歌の会各会員。

一世 (issei) いっせい 【ピアノ】

モスクワ音楽院・大学院博士課程ピアノ独奏科修了。芸術学博士。日本演奏連盟会員。18歳でコンサートデビュー以来、日本全国や海外にて独奏・伴奏・室内楽で演奏活動。国内では井口基成、安川加壽子、園田高弘の各氏に師事。

太田 ゆり子 おおた ゆりこ 【ピアノ】

宮城学院女子大学音楽科ピアノ科卒業。その後渡米。イーストマン音楽院にてピアノを学ぶ。小田式子、庄司知子、ジョンハント、ロマンオルトナー、ハロルドワイス、矢代秋雄、片瀬敬子各氏に師事。ソロリサイタルをはじめピアノデュオ、室内楽リサイタルを多数開催。各種演奏会に多数出演。中国、韓国にて文化交流演奏会に出演。「ゆりの会」主宰。NPO法人ミューズの夢、宮城県芸術協会各会員。

櫻田 薫 さくらだ かおる 【ピアノ】

武蔵野音楽大学卒業。ポーランド・ショパンアカデミーで学ぶ。ソロリサイタル、声楽や合唱の伴奏、アンサンブル等、多くのコンサートに出演している。荒憲一、外山準、赤城眞理、B・ムシンスカ各氏に師事。東北福祉大学非常勤講師、宮城県芸術協会会員。





次回

の

お知らせ

第 107 回 コンサート

2016 年 6 月 5 日(日) 14:00 開演

仙台市戦災復興記念館 記念ホール